

平成24年4月1日



伝説の名花「宗堂桜」 昭和26年6月22日 岡山県天然記念物 場所：岡山市東区瀬戸町宗堂（宗堂山妙泉寺跡地）

濟世

瀬戸地域の春を彩る「宗堂桜」の花は、直径3cm位で横に向いて着生します。花弁は約60枚にも達するものがあり、内方の20枚ばかりは反転して二重の弁となるのが特徴です。

八重桜 八重桜としては、類例がなく、普賢縁岡山とならんで宗堂という品種です。花の色は赤く、枝莖は太く、花は山桜のように葉を出してから咲き、花期は4月中旬頃とされています。

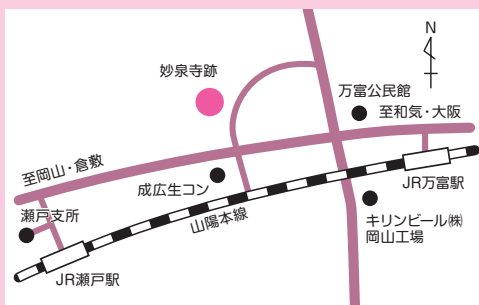
この宗堂桜には、300年ほど前のある悲しい出来事の伝説があります。この悲しい出来事以来、毎年咲き誇っていた八重桜の内方の20枚ばかりの花びらが開ききることがなくなったと語り継がれています。

この桜を今日まで懸命に育ててこられた地元の方々、とりわけ宗堂桜保存会等の皆さんの活動により今日があります。(宗堂桜の歌と踊りも創作されています。)

毎年4月中旬頃には、県内はもとより県外や最近では外国の方たちも訪れています。

春の一日に、ぜひ一度、美しい宗堂桜と悲しい伝説の由来を探訪しにお越しください。お待ちしております。

瀬戸地区 会長 室 義 忠



主任児童委員部の十年

主任児童委員部部長

松嶋 且子

私達主任児童委員は、平成六年一月一日から制度がはじまり、各地区に配置されました。その七年後、平成十三年四月一日、岡山市民生委員児童委員協議会の中に主任児童委員部が設立され、十年の年月を重ねてきました。

設立当時は、岡山市全体で七十九名の主任児童委員での出発でした。

主任児童委員部は、各福祉事務

所管内から、代表者であ

る「幹事」に

出てきても

らい、同年四

月二十六日

に、はじめて

の「幹事会」

を開いて以

来、話し合い



を重ねて運営をしています。

その年の五月二十九日、吉備高原の「おかやま希望学園のびのび小学校・希望中学校」に、はじめての研修に行きました。ここは、不登校など既存の学校になじめない子ども達を受け入れている、全国でも稀な小中一貫の全寮制の学校です。ここでは、ただ説明を聞くだけではなく、子ども達と一緒に作業をし、遊ぶこと、触れ合うことを大切にしました。

その後も、自分達の身近にある、市内の児童福祉施設を知ろうと訪問する中で、「岡山県立成徳学校」との出会いがありました。「成徳学校」に入所した子ども達は、「家庭舎」という小さな建物に分かれ、住み込みの寮長夫婦と副寮長三名の職員と共同生活をします。家庭舎では家庭的で楽しくあたたかい雰囲気大切に、子どもと職員が生活を共にする中で信頼関係を

深め、心にエネルギーを蓄え、再び地域に帰って行けるよう支援しています。「成徳学校」は、このような全国的にも稀な「小舎夫婦制」という運営方式を採っています。

傷ついた子ども達への支援の原点を学ばせていただくため、現在も関わりをもたせていただいています。そして平成十六年には、はじめて県外の「貴船原少女苑」（広島県東広島市）という少年院に研修に行きました。

以来、傷ついた子ども達を支援する様々な取り組みについて学び、他都市の主任児童委員と交流・意見交換を行うなど、研修を通じて、子ども達の抱える問題をより深く知り、また様々な情報を得て、主任児童委員としてレベルアップを図れるよう努めています。

また、平成二十年から「幹事会」を定例化しました。これは、普段の活動での問題意識や悩みを福祉事務所の管内を越えて共有し、お互いを励まし、相互に研鑽を積むためでもあり、また、支援・保護を必要とする子どもが市内のどこへ転居してもスムーズに引継ぎが

でき、また可能な限り同じレベルの支援が行えるよう、主任児童委員間の横の連携を図るためでもあります。



この間、主任児童委員は一つの地区に一名の設置であったものが、複数名の設置ができるようになり、また合併などもあって徐々に人数を増やしてきました。現在では百四十七名の主任児童委員が岡山市で活躍しています。これには子どもへの虐待の増加など、社会背景の変化も関係しています。

最近では、主任児童委員は子どもへの虐待防止のオレンジリボンキャンペーンに積極的に参加・協力し、キャンペーンを通じて子どもへの虐待防止にも力を注いでいます。また、発達障害への理解と支援にも力を注いでいます。

平成二十三年 度 第八十回全国民生委員児童委員会に参加して

広報委員会委員長

西方 立夫

平成二十三年 度 第八十回全国民生委員児童委員会大会が、十月二十七日（木）～二十八日（金）の二日間、青森県総合運動公園マエダアリーナをメイン会場に開催され、岡山市から岸本会長以下十名が参加しました。

一日目、小気味よい津軽三味線をはじめとする郷土芸能によるオープニングで気分は高まり、式典に引き続いての青森出身のプロスキーヤー、三浦雄一郎氏による特別講義「『絆』忘れちゃいませんか 大切なものを」では、ひ弱で落ちこぼれだった幼少期から世界

最高峰のエベレストに世界最高齢（ギネスブックに掲載）となる七十歳七か月で、しかも二男・豪太氏との日本人初



の親子同時登頂を成し遂げるに至る、「家族の絆」と「あきらめない心」についてのお話に聞き入りました。私達民生委員・児童委員も、「絆」と「あきらめない心」を大切に日々の活動に取り組んでいきたいと改めて心に誓いました。大会宣言の採択、次期開催地（大分県）あいさつに続き、最後は青森ねぶた祭の「ラセラ・ラセラ」という囃子に合わせて、会場全員で跳ねてこの日を終わりました。

二日目は、十の活動交流集會に分かれ、全国各地の活動事例を紹介しながら、その活動に関わる課題とノウハウを学び合うとともに、参加者同士が交流を深めました。

- 一 民児協活動と関係機関との連携を考える
- 二 高齢者の孤立・孤独をなくすために
- 三 自殺防止に向けた取り組み
- 四 生活困窮世帯への自立支援
- 五 災害時要援護者支援活動を推進するために

六 課題を抱える子ども・子育て家庭への支援

七 学校等関係機関との連携強化を進めるために

八 障がい者を社会で支援するために

九 豪雪に伴う高齢者等への支援活動しやすい環境づくりのために

昨年の三月十一日に発生した東日本大震災により東北地方の多くの方々が被災し、原発事故の影響も深刻で、開催が危ぶまれた青森大会でしたが、全国から三千名以上の民生委員・児童委員が集まり、熱気あふれる大会でした。

この大会に参加して私達民生委員・児童委員は、地域社会の「絆」を深め、支え合う仕組みづくりや見守りネットワークの構築を図り、「広げよう 地域

に根ざした 思いやり」行動宣言に基づいた取り組みをさらに推進していかねばと決意を新たにしました。

「広げよう 地域に根ざした 思いやり」行動宣言に基づいた取り組みをさらに推進していかねばと決意を新たにしました。



平成二十三年 度 中国ブロック民生委員・児童委員関係事業会議報告 「安全・安心の絆をつよめて」

広報委員会副委員長

前田 正昭

六月三十日から七月一日にかけて、平成二十三年 度 中国ブロック民生委員・児童委員関係事業会議が、広島駅北口のホテル広島ガーデンパレスで開催されました。中国五県と広島市・岡山市両市の代表者に来賓を加えて五十八名が参加し、それぞれの地域の実情などについて発表と熱意のこもった討論が行われました。

開会式典、基調報告の後、四つの分散会に分かれ、活発かつ熱心な意見交換を通じてそれぞれが抱える問題を共有し、また認識を深めました。

中国ブロックで確認された事業方針をいくつか抜粋



して報告します。

①東日本大震災被災者に対する支援活動等の推進

・都道府県指定都市市民児協を通じて、全国の民生委員・児童委員から義援金を募集し、被災した民生委員・児童委員への支援を行う。

②民生委員・児童委員による相談・支援活動の強化

・高齢者、障がい者等への見守り、相談・支援活動強化

・生活困難家庭と地域社会とのつなぎ役を務める取り組みの推進

・災害時要援護者支援活動の推進

③民生委員・児童委員が活動しやすい環境の整備（行政からの支援）

・時代の移り変わりにより、地域によってはマンションが建ちならび、一方では、かつての新興住宅地は高齢化が進んだ地域になるなど地域の事情が変わってしまっているが、民生委員・児童委員の定数や地区割りには長年従来の上ままで活動している。一人が担当する世帯数の差も大きく、そのために活動する上で大変苦慮し、引き受け手もなかなか

かなくなつて選任に苦勞していたり、地域によっては欠員のままになつたりしている現状がある。

・民生委員・児童委員は、守秘義務があり、活動内容を他に話すことができないために活動を理解されないことも多く、何もしていないと批判を受けることがある。時に誤解されることや矢面に立たされることもある。

翌日の全体会では分散会の報告と意見交換がなされました。そして閉会前に「民生委員・児童委員の活動」の様子をテレビスポットにして、広島県民放四局で県民に向けて朝・昼・晩に十五秒であるが放映し、週にすれば百本程度となることを聞き、大変感動しました。事務局も含め広島県民生委員児童委員協議会の苦勞を大いに讃えたいと思います。



清輝地区の活動と取り組み

清輝地区民生委員児童委員協議会

会長 内山 久暉

清輝地区は、岡山市の中心に位置し、東側は旭川、西側は枝川緑道公園、約一キロメートル四方の小さな地区で、二つの総合病院、個人医院が七医院、市立中央図書館、障害者体育センター、岡輝公民館、清輝児童センターに老人憩いの家、テニスコートにグラウンドや多目的広場のある二日市公園とすばらしい環境ですが、多くの施設が地区の南東に集中し、高齢者の利用が少ないのが現実です。

人口も三十五年前の三分の一の六、九五三人で四、四三四世帯（平成二十三年十一月末日現在）。高齢化率は学区全体では二七・七%ですが、民生委員・児童委員の担当区域によつては五十%以上のところが五箇所以上あり、少子高齢化と人口減少がやみません。また、生活保護世帯も多く、個人商店やスーパーもないため買物は地区外へと不便です。

一人暮らし、高齢者世帯、無縁社会と課題満載の中、四年前から一人暮らし・引きこもり対策で清輝まちかどサロン「ちよっとお茶でも飲もう会」をコミュニティハウスで毎月二回、参加無料ではじめました。参加者は二十名ほどで、はじめに地域包括支援センター岡輝サブセンターの方よりお話を聞き、あとは男性民生委員・児童委員のスタッフ三名で作ったクッキー、ワッフル、蒸し饅頭等をお茶菓子の雑談。三箇所ほどして「昼食を」との意見があり、参加者も手伝いたいと言い、それを受けてネギ焼き、お好み焼きにはじまり、野菜があると言えば蒸し野菜を、寒くなれば湯豆腐、夏は冷やし中華等、料理のレシピやマニュアルもなく、皆でわいわい言いながら楽しく作って食べています。これも参加無料です。そして、年二回精神障害関係のNPO法人「ふりこの会」との交流会は、総勢三十人にもなり、にぎやかな座談会です。



平成二十二年十月より岡山市の地域保健福祉モデル事業に参加し、平成二十三年二月から六月にかけて、「あんしんカプセルおかやま」に取り組みまし

た。これは一人暮らし高齢者等の安全・安心のため、名前や血液型、緊急連絡先、かかりつけ医等を書いた「あんしんカード」を「あんしんカプセル」に入れ、「あんしんシール」を貼った冷蔵庫に保管して万一の時に備えるものです。地区に四百八十五本のカプセルを配りました。昨年の六月に一件、このおかげで一命が助かり、妹さんよりお礼の言葉をいただきました。今年度は高齢者だけの世帯にも増やしていきたいと思っています。

子どもの関係では、小学校、中学校、保育園、児童センターの先生や職員に定例会に来ていただいて子ども達の様子をうかがっています。

また、月に二回、保育園へ民生委員・児童委員三名が行き、門の

前で親子にあいさつをし、園の色々な行事にも参加して園児と顔なじみになっています。

小学校では、子ども達との対面式をしています。まず、子ども達に学校だよりや行事の案内を届けてくれるお礼を言い、その後、顔を覚えてもらうため四ブロックほかに分かれ色々な話し合いをして、最後に困ったことがあれば優しいおじさん・おばさんに相談に来るよう伝えます。校内を花いっぱいにする「花植大作戦」では、子どもとその保護者、地域の方々と民生委員・児童委員十名以上が協力して花を植えます。春と秋の学校周辺の清掃「ピカピカ大作戦」では、お助け隊として男性民生委員・児童委員五名でグラウンドの溝の土上げ、草取り、ペンキ塗り等を行っています。

このように、課題が多い中にも、明るさを忘れず取り組みをつづけていきたいと思っています。



私の野菜作りとその楽しみ

福島地区

大倉野 明俊



「アアア、またやられている」
先日播いた野菜の双葉が生え際からプツリと噛み切られています。

その根の近くを掘り返すと、小さく丸まった灰褐色の虫が出てきました。その虫を取り、種を播きなおすのですが、農薬を使わない野菜作りではこの繰り返しです。

私の本格的な野菜作りは六年前からで、それまでも少し作っていましたが、子ども達が「うちの野菜はおいしい」と言ってくれるので、知り合いの農家から五アールほどの畑を借り、今では五十種類を越え、東京に住む子ども達に毎月野菜の詰め合わせを送っています。

栽培方法がわからないことも多いのですが、元気な時、水や肥料不足の時、病気の時、それぞれ違う表情を毎日見ながら対処法を考え、成長を待つのが楽しみです。畑仕事をしていると、ウグイス、



ヒバリ、キジ、カッコウなどが季節を告げてくれます。カラスは早朝から近く

の電柱で「カア、カア」とうるさく鳴き、私達に早く帰るよう催促します。収穫直前の野菜は絶好の餌食。鳥や虫に食べられ、残りを私達がいただくことになってしまいます。全部食べられることもよくあり、少しでも多く残るよう知恵比べをします。

畑の行き帰りが楽しみのひとつ。海沿いの道で見える日の出の瞬間には、「ウワー！」と感嘆し、山道では新緑から紅葉までの自然の移ろいを満喫することができます。

このように楽しみの多い野菜作りですが、締めくくりは大晦日。

秋に収穫した蕎麦を石臼で粉にして年越し蕎麦を作りますが、子どもや孫達が「太い、細い、短い、長い」など文句を言いながら食べてくれます。



素人が一年に一回しか作らない手打ち蕎麦、それでもいいのです。

岡山市発達障害者支援センター『ひか☆りんく』

岡山市発達障害者支援センター

所長 奥野 淳子

「発達障害」は、自閉症・アスペルガー症候群・その他の広汎性発達障害・学習障害・注意欠陥多動性障害などの総称で、乳幼児期には言葉の遅れや落ち着きのなさなど、発達の偏りとして現れます。

原因は、まだはっきりしていませんが、脳の働きに生まれつきの特徴があると考えられています。親の育て方や愛情不足、本人の努力不足などが原因ではありません。

また、障害があっても、乳幼児期から一貫した支援を受け、適切な関わりの中で成長することで生きづらさが軽減され、持っている力を伸ばしていくことができます。

発達障害者支援センター『ひか☆りんく』は、支援の中枢を担う場として、北区春日町にある岡山市勤労者福祉センター一階に開設されました。

センターでは、発達障害のある方やその疑いのある方、そのご家族、

また、関係機関で支援に携わっていただける方などからのご相談をお受けしています。

日常生活に関わる様々なご相談やお子さんの発達や子育てに関する不安、就労に向けた相談など、まずは、お電話（〇八六―二三六―〇〇五一）でご相談ください。対象となる年齢は問いません。教育・医療・保健・福祉・就労などのそれぞれ関係する専門機関と連携を図りながら、支援を行っていきます。

また、講演会やセミナー等の啓発活動や研修など、発達障害への理解を深めるため、普及啓発活動を行っていくこともセンターの大きな役割だと考えています。

『ひか☆りんく』の愛称どおり、障害の有無に関わらず、一人ひとりが自分の個性や特長を（ひかり）輝かせて、多様なつながり（リンク）をもてる場となるように頑張っていきたいと思っています。



～中区福祉事務所が移転しました～

昨年12月26日から中区福祉事務所が赤坂本町に移転し、業務を開始しました。

中区福祉事務所

〒703-8566 中区赤坂本町11-47

（市営東山プール及び中消防署旭東出張所隣）



電話

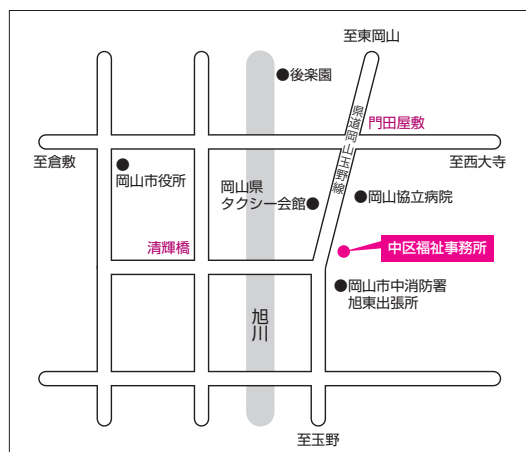
●福祉振興係	086-901-1231
●生活福祉係	086-901-1232
●介護サービス係	086-901-1233
●地域こども相談センター	086-901-1234

ファクス（共通） 086-272-7410

新しい中区福祉事務所には、市民サービスコーナーの他、社会福祉協議会、地域包括支援センターの事務所が入っています。

併設の施設

- 中区福祉事務所内市民サービスコーナー
電話：086-272-8191
- 社会福祉協議会中区事務所
電話：086-238-9200 ファクス：086-238-9500
- 中区地域包括支援センター分室
電話：086-206-2871 ファクス：086-206-2872



表彰受賞者

平成二十三年度岡山市民生委員児童委員大会では四十名の方々が表彰の栄に浴され、会場でご紹介させて頂きました。ここでは、それ以外で受賞された方々・民児協を紹介いたします。受賞おめでとうございます。〔敬称略〕

●厚生労働大臣表彰

岡南地区 荒木 伸
幡多地区 長汐 良熊
妹尾地区 小銭 純宏

●岡山県知事表彰

弘西地区 西川 久雄
岡南地区 佐藤 早苗

●全国社会福祉協議会会長表彰

弘西地区 岸本 俊男
甲浦地区 荒城 賢真

●岡山県社会福祉協議会会長表彰

御野地区 小田 勝弘
大元地区 上田井保夫
牧石地区 小山 明子
高松地区 吉田 芳功
宇野地区 北村 幸子
平福地区 馬場 武彦

●全国民生委員児童委員連合会会長表彰

（永年勤続地区会長表彰）

西大寺地区 小林比禮子

●岡山市表彰

岡南地区 大月 剛
西大寺地区 小林比禮子

□済世賞

旭竜地区 泉 照子

昨年十月十三日、平成二十三年度岡山県総合社会福祉大会にて、泉 照子さん（旭竜地区）が済世賞を受賞されました。

済世賞とは、大正六年五月十八日、当時の笠井信一岡山県知事が済世顧問制度を創設したことになみ命名されたもので、社会事業に対する功労・功績を讃えるものの中では岡山県内で最高の賞と言えます。済世賞の授与は昭和二十八年から行われています。

●岡山県共同募金会長表彰 （奉仕団体）

灘崎地区民生委員児童委員協議会

「メールマガジン 消費生活情報おかやま」の配信を始めました!!

岡山市消費生活センターでは、悪質商法の被害やトラブルの予防、早期発見、拡大防止を目的として、「メールマガジン 消費生活情報おかやま」を配信しています。

消費生活センターに寄せられている消費生活相談の内容や、悪質商法の新たな手口、消費生活に関するイベントなどの情報を提供します。

【登録方法】

携帯電話での登録は、下記のQRコードもしくは岡山市公式携帯サイトから。パソコンでの登録は、岡山市ホームページ右下の「携帯サイト」から。どちらも「メールマガジン登録・解除」から登録してください。

岡山市公式携帯サイト 〈<http://mobile.city.okayama.jp/>〉

※登録できない場合は、直接下記のアドレスまで題名、本文ともに空のメールを送信して配信登録を行ってください。

reg@mobile.city.okayama.jp

※受信制限をご利用の方は「mobile.city.okayama.jp」からのメール

受信ができるように設定してから、空のメールを送信してください。

※登録は無料ですが、パケット代等の通信料は自己負担となります。



なお、登録方法がわからない方は、岡山市消費生活センター（086-803-1105）までお問い合わせください。

文芸欄

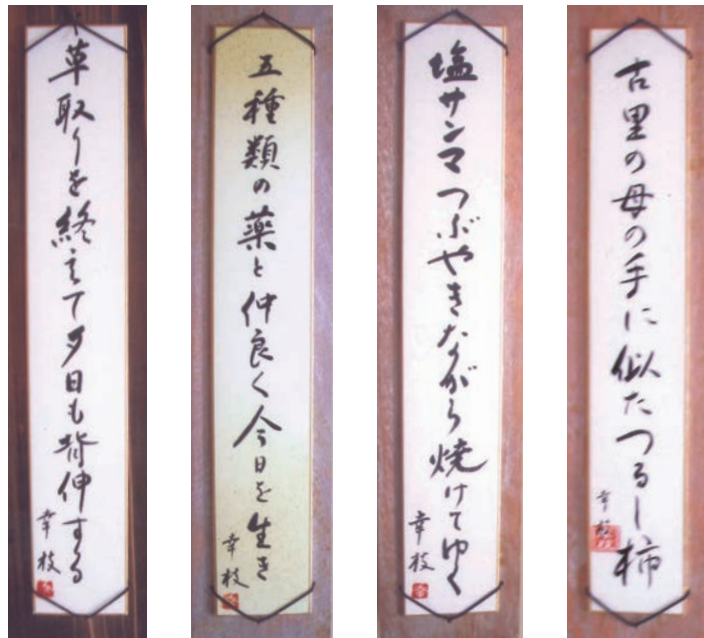
絵手紙



いきいきサロンで、みんなとお喋りしながら絵手紙を描く時間（ひととき）が、とても楽しみです。

津島地区 長田 民子

川柳



まだはじめて半年の川柳です。秋の日の日常をうたってみました。

宇野地区 谷口 茂

◆委員より◆ 文芸欄を募集します。写真・絵・工芸・俳句など自薦他薦は問いません。事務局までご連絡ください。
事務局（福祉援護課内） ☎086-803-1218

編集後記

民児協おかやま34号をお届けいたします。

表紙には瀬戸地区 室義忠様の「伝説の名花 宗堂桜」、実に見事だと思いませんか？

また、取材レポート、地区活動紹介など多くの皆様からご寄稿いただき、宗堂桜に負けず劣らず見事な紙面ができました。

これからも充実した紙面となるよう広報委員一同がんばってまいります。

今後とも皆様のご寄稿、ならびにご指導、ご鞭撻よろしくお願いいたします。

吉永 珠生 記